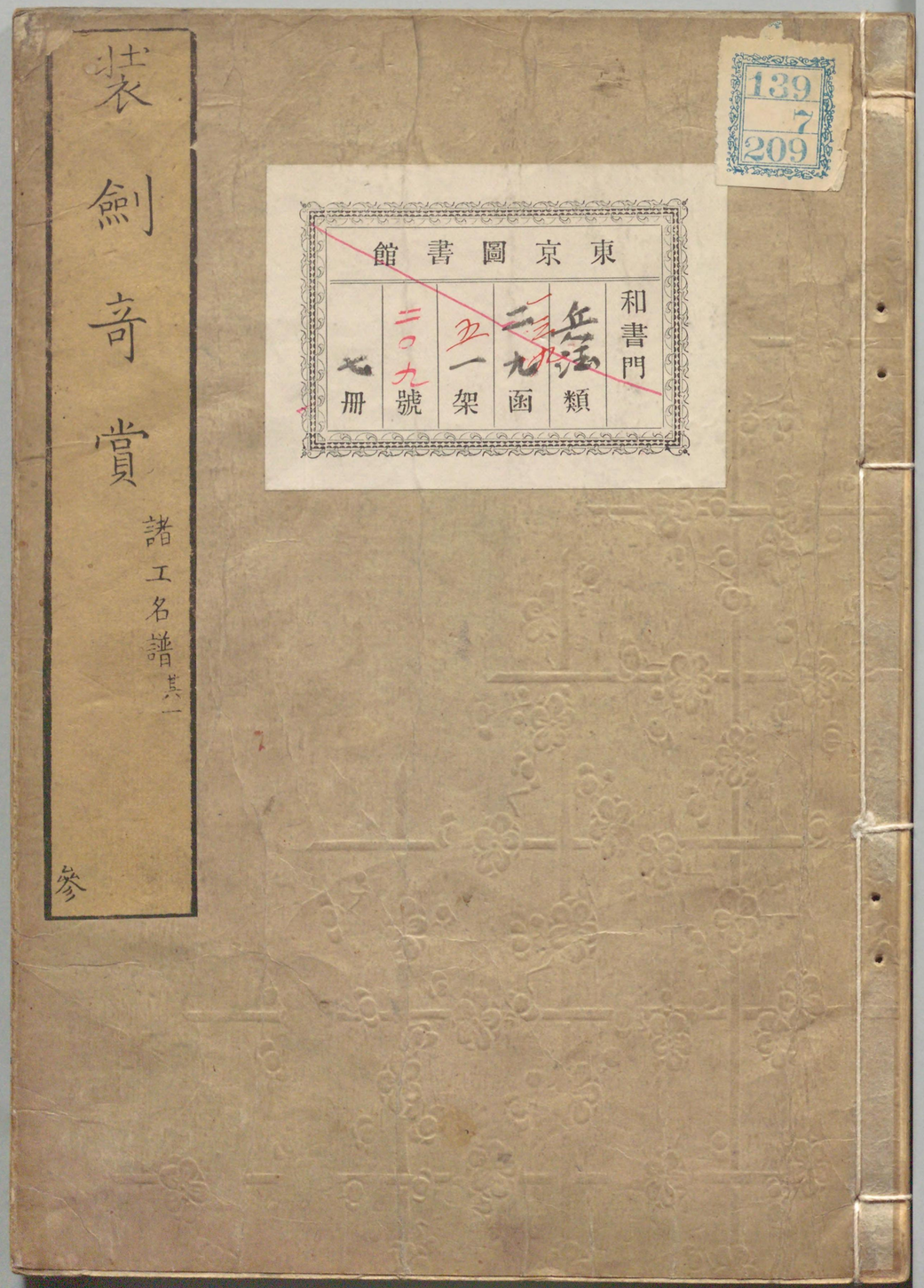


139
7
209

東京圖書館
和書門
兵法 類
二九 函
五一 架
二〇九 號
七 冊

国立国会図書館　　装剣奇賞 7巻　139-209

ガラス使用

雕工名譜類字

宗 一ヲ	忠 十ヲ	知 十六ヲ	弘 二十ヲ	政 廿三ヲ	英 三十ウ	孫 三十五ヲ	矩 三十六ウ
利 五ウ	安 十一ヲ	其 十六ヲ	序 二十ウ	正 廿五ヲ	常 三十二ヲ	有 三十五ウ	
重 七ヲ	光 十二ヲ	如 十六ウ	長 廿一ヲ	信 廿九ヲ	清 三十三ウ	尚 三十五ウ	
乘 九ヲ	芳 十五ウ	直 十七ウ	久 廿二ウ	陳 三十ヲ	尹 三十五ヲ	則 三十六ウ	

裝劍奇賞巻之三

浪華 稲葉通龍 新右衛門著

彫工諸家名譜

宗

宗與 横谷氏名ハ盛次稱ス次兵衛ト京新町武者小路ニ住ス寛永年中下リ江戸ニ正保年中被ル為セ仰セ付ケ御彫物御用ニ頂ニ戴ス御藏米貳百俵二十人扶持ヲ住ス神田ニ此ヲ曰ニ祖父宗與ト上手なり。家風(イヘフウ)をよく得(エ)て。頗(スコフル)ふがゝある作之

宗知 名ハ次貞稱ス次兵衛ト御用ヲ貞享四年ニ没ス 宗與ノ家督ト勤ム

宗珉 名ハ友常號ス遯菴(トンアント)俗稱ハ次兵衛 宗知ノ家督ト勤ニ御用ヲ後ニ辞ス御扶持ヲ享保十八年ニ没ス

横谷氏の中興(チウコウ)にして。其ハ名人と稱(シヨウ)せ。よく家風(イヘフウ)を彫(ホリ)て。作(サク)ハまさるくものなり。珉これ我いとひ。其名

国立国会図書館 装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

我、後世にはこさん事、我ねがひて、探幽法印にたより、或ハ英一蝶にちなみて、下絵我も必免、もしめて絵風鈒金といふものは創意して、遂に一家我なせり、是江府にて町彫といふものはじめし、此翁乃工れ凡ならざる、其志高く、其画趣清淡にして、水碧に沙明なるに、其山月を筆、連峯にほひ我ふくみて、其景倒に鑒がごとく、人為の及バざる風致あり

宗與　名ハ友貞　江戸神田住
横谷氏宗珉子
上手なり、父乃風我よくはこゝろえて、たとしざるをいうなるにや、近年其貴頗る減ぜ、志れば固凡手にあらざれば、其名必發せざし

宗珉　名ハ友次　當代
明和三年、父宗與隠居して、家督我嗣、上手也

宗峯　植村氏
京都御池通富小路東へ入町に住す、俗稱ハ升屋九右衛門といふ、武者人物一流の彫工也

宗堅　尾崎氏
重兵衛と称す、後藤程乗弟子

宗徹

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

藤中氏。後藤栄乗弟子

宗武

埋忠氏

宗永　岩本氏　稱平次

江戸麹町六丁目に住す

宗峯

桐木氏。京都北野大将軍に住す

宗印　吉岡氏　江戸住

手際（テギハ）さつぱりとして力あり。氣象（キシヨウ）あらはれて拙（ツタナ）からず。至て上手にして名人（メイジン）に亜（ツグ）べき作なり

宗顯　野村氏　俗稱宗九郎包教弟子

江州彦根の人。一に幽明子（イウメイシ）と號す

宗寛　岩本氏　俗稱幸八　江戸麹町住

良寛弟也後良寛弟子五郎八ヲ子トシ宗寛ト名乗ラシム

前彫ハ岡邑栄宜と銘す

宗貞　奈良氏

俗稱（ヨビナ）ハ才市といふ。江府神田に住す。奈良彫物乃え祖なり。但（シ）其始（ハジメ）ハ御塗物師（ヌリモノシ）の家より別（ワカ）れ

宗有　奈良氏　稱四郎兵衛

御餝（カザリ）御用を勤（ツトム）。越前と稱ず。江府神田に住す。此人景色（ケイシヨク）を彫（ホル）に上手なり

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

宗典　喜多川氏　二代目

江州彦根の人。藻柄子と銘を。しるゝ我世俗或ハあやまつて。モガラシとよむものあり。一笑に堪たり

宗左衛門

妻谷氏。薩州乃人。後江戸に住を

宗兵衛

右宗左衛つ子なり

宗介　紀氏　江戸住

明珍大隅守と稱を。信家の末葉と云。よて信家作の鐔。又ハ冑鉢に折紙を出せり

宗久

藤田氏圓右衛門と稱を。埋忠信房弟にて。藤田の家を嗣ぐ。加州金澤の人なり。細工手ぶよく。鮮明にして。上手といふべき位なり

宗房

藤田氏丈助と稱ぞ。宗久の弟。金澤本ノ新保町に住。兄と並稱ぞべき上手なり

宗吉

象眼師なり。正保年間伏見より加州金澤に移る。祿百石を賜ひ。兵部と稱を上手なり

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

宗次　兵部弟子

次郎と稱ず。加州金澤象眼工

宗長　同上

九郎次と稱ず。加州金澤象眼工

宗義

埋忠氏。橘宗義（タチバナノムネヨシ）と銘（メイ）し。数馬助（カズマノスケ）と稱す。大坂の住

宗益　井上氏

上京狩野辻子（カノヽヅシ）に住す

宗由　ぶ

江戸住

宗理

其姓未詳。嘉平次と稱ず。宗珉弟子なり

松平肥前守様御抱（カヘ）になる

宗則　其姓未詳稱弁之助（ト）　京師住

鉄屋源兵衛弟子

宗利

鍔工なり。其銘をみるに表（オモテ）に上佐國住明珍（トサノクニノヂウミヤウチン）

宗利（ムネトシ）裏（ウラ）に神道五鉄錬（レンタウゴテツレン）と題（ダイ）す。鉄の冶（キタヒ）をして

上手なるものなり

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

利治 奈良氏 称ス四郎兵衛ト

江府に住せり。手際清楚にして気象あり。上手といふべし

利永 奈良氏

七郎左衛門と称す。江府神田に住せ

利光 奈良氏 称ス七郎左衛門ト 江戸山伏井戸ノ住

宗閑と号す。七十二歳にて没す。利永子なり

利寿 (印) 奈良氏太兵衛と称す。江府本庄に住す。利永の弟子なり 名人

其細工家風よく。横谷風にもおとらず。草花鳥類等。甚よろしく。世競ひて一流と称美す。已

前より縁なる三分ある縁など。当時もはやりし故。奈良風を擬する人多く。数品あれども。此人の手際に於て八分及べるものなし奇巧あり。さるから後年奈良彫のさかりとなりて。殊に利寿乃銘を彫るもの多くあり。是燕石の玉に似るたぐひにて。卞和氏の一顧によるべし

利随 (印)

江戸神田に住。其姓未詳。矩随弟子

利國

江府の住。奈良風なり

利助　植村氏

京富小路御池下ル町に住を。俗稱升屋利助と

いふ。宗峯弟子

利長　姓氏居住等未詳

藻出乃鯰などの縁頭に此銘間入てきり

利光　姓氏等未詳江戸ノ住

但前ニ出タル奈良利光トハ別人

利貞　氏等未詳佐渡人

鍔工なり。透無地とも。鐵の冶甚だ精良にして。

工亦ゑて上手なり

重

重右衛門　黒瀬氏

後藤廉乗弟子

重次

岩井氏茂右衛門と稱ず。後藤廉乗弟子

重吉　埋忠氏　京師人

初重義といふ。義満公に仕へまる鍔縁頭

などは作ほ。上手なり

重吉　埋忠氏　京師人

彦二郎と稱ず。明壽と號し　将軍義昭公。

豊臣秀吉公及び関白秀次公に仕ふ彫物ハ希代

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

れ上手なり。鍔又劍をも打し人にて。今に至
て。これ我珍重を

重義　埋忠氏

彦二郎と稱ず法橋位に叙し。明真と號を。
刀劍れ銘に八。家隆と切まり。此外他國に。埋
忠を姓とする剛工あれハ。皆此家乃弟子筋な
るべし

重長　新七と稱ず

重次　喜八郎と稱ず
辻山城守弟子家

右共に加州の象眼工なり

重基　久保氏

京都佛光寺新町に住す。俗稱鉄屋金兵衛と
いふ。始武教と銘す。鉄屋傳兵衛弟子

重廣　吉岡氏

江府に住す。奈良風なり。吉岡の元祖

重光　大森氏　江戸金龍山下住

与市と稱ず。英昌前彫に銘する所なり

重光　中村氏

半七といふ江戸の住

重治　奈良氏

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

重兵衛と稱ず。江戸の人なり。利永弟子

重啓　奈良氏

江戸に住す

重綱　渡邊氏

重賢　佐々木氏　京師ノ住寛永年間ノ人

重二郎　姓氏等未詳　京師本滿寺辻子

重勝　正阿弥　住所等未詳

重信　姓氏未詳俗稱喜太郎　京師ノ住
鉄屋傳兵衛弟子

乘

乘意　奈良氏　江戸金吹町に住す

前彫ノ印如此ナリ

此人初奈良太七と稱して。奈良善三弟子なり。一に一蠶堂永春といひ。後杉浦仙右衛門と改て。深川御屋敷に住すと。其彫工鍛錬精到。已に名人の域に至れり。奈良風の一変にて。肉合彫と云ふ。その我創意せり。是我其師家にくらぬるに。所謂青ハ藍より出て。藍よりも青きの類にて。超凡の奇工なり。其鑿つき直にして。氣力我ふくえ。これ我掌上に駁ハ其ぬを視。これ我刀劍に裝へバ其品を高きるの体に名人乃境といふべし

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

乗圓　藤井氏

後藤廉乗弟子なり

乗知　佐々木氏稱ス庄兵衛ト　京師兼町住

後藤勘兵衛弟子

乗竹　磯野氏　京師住

俗稱升屋文右衛門寛延比小左衛つと改む

乗光　酉井氏　大坂菅田町善菴筋住

俗稱升屋宇兵衛京師升屋喜兵衛弟子之

忠吉　野村氏

辻平八と稱し江府に住す津尋甫（ツノジンホ）弟子なり

忠義　江府住

地磨（ヂミガキ）にして傘（カラカサ）に冠（カウクリ）などの彫物あり縁頭（フチカシラ）など

ほかこしきひくし奈良風なり

忠兵衛

江府の人宗珉弟子之

忠七　小田氏　薩摩谷山住

鉄（テツ）物師なり刀豆（ナタマメ）の鍔（ツバ）など代彫事一家（イツカ）之

忠平

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

三郎三郎と稱ず。加州金澤象眼師之。正保乃比伏見より彼地に移(ウツ)るれ。孫五拾俵を賜(タマ)ふ

忠清

庄太郎と稱す。加州金澤象眼工なり

忠好

京師の人鍔工なり

忠道

京師の人

忠連 佐々木氏

三郎三郎と稱ず。大阪玉造(タマツクリ)に住す

安

安親

奈良氏本姓土屋 江戸神田龍閑町

俗稱弥五八。後東(トウ)雨(ウ)と號(ガウ)す奈良辰政(トキマサ)弟子之。玉こく上手にして。利壽(トシナガ)に似(ニ)て。同しかゝざる曲者(クセモノ)なり。たとへバ光琳(クワウリン)の梅を画(エガ)き。千鳥(チドリ)を筆(ヒツ)するがごとく他画(タグワ)(ホカノエ)の梅をもつくらぬまゝバ別様(ウタテ)(カハツタ)おれども。誰がみても。梅とひとしきもあるがごとく。奇(キ)哉このこそ妙(ミヤウ)に詣(イタ)まり。是又近年贋造(ガンザウ)多く出まども。中々庸手(ヨウシユ)(ヘタ)の擬(ギ)すべき手(テ)(ギ)(ニセザク)にあらず。具眼(グカン)(メキ)のものハ。其真贋(シンガン)(ゾコトニセ)忽(タチマチ)に辨(ベン)ずべし

安親

初ノ安信と名乗(ナノル)・奈良東雨子にして・父におとらざる上手なり・江戸に住せ

安重瓦　布施氏稱ス庄三郎ト　後藤即乗弟子

安光為　奈良氏　江戸住

安宣　野田氏

忠左衛つと稱(イフ)・京富小路押小路上ル町に住せ

安道　橘氏　讃州高松研屋町ニ住ス

弥右衛つと稱ず・上手ニ・　高松侯御扶持人

安之　江戸住

安兵衛　渡部氏　京風呂辻子

光

光行　菊岡氏　江戸神田竪大工町ノ住　柳川直光弟子　俗稱利藤次號ス獨甫齋又崔下菴ト

上手なり・横谷風にして・やちらかに尓高(ヒンタカ)し・

しのぎしき事あれもしげなれども・さすがに地(ツチ)に

臥(フサ)ざるがごとく・たまくにして力(チカラ)ある臥なり

光政　菊岡氏

江府の人・光行(ミツユキ)弟なり

光[illegible]　加此アリテ其實未詳

赤銅の縁など・地磨(ヂミガキ)にて見事なるに・洲流(スナガシ)に鷺(サギ)

乃類ハ彫ものあり

光英　三上氏　江戸浅草観音ノ寺内ニ住

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

柳川直光（ナホミツ）弟子なり

光林　大月氏

鑿の痕奇麗（アトキレイ）にして氣象も健（スコヤカ）なれば上手なり。

於尾陽名古屋旅宿作之（ニテルヲ）と銘するもの間（ニ）あり

光重　埋忠氏

京都西陣に住

光成　青柳氏　江戸數奇屋川岸住

良光前彫の銘にして。稲川氏の弟子なり

光慶

江府の人

光守　後藤氏

此後藤氏いづれ別（ワカ）まるや未詳。大躰の作なり

光國　阿部氏

俗稱升屋義兵衛。京富小路御池上ル町に住す

光春　坂元氏

俗稱升屋嘉兵衛。京富小路御池上ル町に住す。生類人物を彫事越るのむ

光行

京師の人

光貞

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

伊右衛つと稱す。宗珉弟子なり勢州津の人

光秀　上田氏

七郎と稱す。其子も同七郎と呼。越前州片町に住す

光政　水野氏

源六と稱ず。多光弟なり。加州金澤南町乃住人。鏨の痕。清楚にして甚巧なり

光章

加州金澤の住にて。甚右衛つと稱ず。能登後藤甚右衛つ子なり

光悦　藤本氏

傳十郎と稱す。悦乘弟子なり。加州金澤の住にて。上手なり。手傳健にして。凡事なる所なり

光定　村上氏

藤太夫と稱ず。越中富山に住す

光永　京師に住す

光暁

濃州住光暁と銘あり。縁の天井まで金ぬりにして。

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

秋の野など我国て深彫(フカボリ)ありて

光政

光伸

右共(トモ)に上に同し。其に是我美濃彫(ミノボリ)といひ。或ハ美濃後藤などとも稱(ショウ)す事詳ならず。但(タヾシ)元祖祐乗此國(クニ)の産(サン)なれば。をしくハ其後胄(コウチウ)(シソン)などの支流(シリウ)(ワカレ)にも知るべからず。今美濃彫といふハ。商家(シヤウカ)よりいひ出せしなるべし

光恒　大月氏　京師小川夷川住

俗稱山城屋喜八。光林十九世孫と云々

光義　西村氏　京師高倉竹屋町住

俗稱笹屋源助。大月光恒(オホヅキミツツネ)の弟子上手也

光品　後藤氏稱(ス)七郎右衛門(ト)

光籌　同　喜兵衛

光長　同　半左衛門

光辰　同　七郎兵衛

光豊　同　勘兵衛

右代々上京室町頭(ガシラ)後藤辻子(ヅシ)に住す。これ我上後藤(カミゴトウ)といふ。同苗彫(ドウメウボリ)なり。各前の家譜(カフ)に載すべきを。いまだ其系譜(ケイフ)詳ならざれば。姑(シバラ)く

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

類字(ルヰジ)によりて此に列(レツ)せり。くはしくは後篇(コウヘン)に出して其工(タクミ)をも品題(ヒンダイ)(ヒヤウベン)すべし

光友　後藤氏

たいづまの後藤の支流(シリウ)(ワカレ)にも詳ならず。銘り。於江州彦根彫之(ニ)行年六十三歳と見えたり

芳

芳章　田中氏稱五左衛門ト　江戸湯島天神下ノ住
後藤利兵衛光倫弟子　至テ上手也

芳信　百壽軒ト號ス　江戸神田永富町
俗稱市十郎　芳宣ト銘あるもの同作也

知

知義　長州萩の人上手なり

知隨　濱野氏　江戸神田鍛冶町住
金左衛門と稱す。後鋪隨(ノブユキ)と改む。政隨弟子之

知真　弥七といひて京師の産なり。後大坂に住せり

其

其阿彌　姓名居住等未詳鍔工也

其友　姓氏居住等未詳
地磨(キ)に藻出(モイデ)の鯉(コヒ)或(アルヒ)は海老(エビ)などの縁(フチ)に間(カシラ)にあり

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

如

如竹　村上氏　江戸住ニ増上寺新門前ニ

其ちじ名ハ鐙の象眼師なり。其父も同ク是ハ業とす。此人の象眼に於てハ一流といふべし。至て上手にして。群を出づ。今名に因てこれ我評せず。竹乃外直にして。中虚く一點乃障なきがごとく。工ぢして自然の工あり。其藁乃涓らとして清風を含ミ。ゑらとの我して。涼からしむるの奇致あり

如筆　まづて草書の銘にて。文字詳ならず。倘或筆の字まづも。ちらんら筆ハ竹の名にて。多くゑらぬ字なれども。字典に出ろう。故にこれ。後考を待のこ

是も象眼師なり。手際奇麗にして。如竹にまがふことの多し。如竹弟子にて。後子となるこ

如鉄　如竹の娘にして。世に娘彫といふ。其字未詳

如水　加茂氏孫山光堂と銘す。京師の人

如柳　如竹弟子　江戸芝神明前住

如柏　如竹弟子　俗稱和助　江戸赤坂田町住　後改ニ松英ト　上手ナリ

如泉　如竹弟子ニヤ未詳　象眼ノ物見ユタリ

如篤　草字にてめ篤に作るもの。篤の字なるべし　江戸人

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

直政　柳川氏　後法名宗圓ト名ク

三左衛門と稱ず、江府神田の住、初ゝ吉岡氏ゟ師とし、後宗珉弟子となる、甚ぞ上手なり、但人物ゟ彫る事ゟこのまず、其最長(モツトモチヤウスグレ)たる和ハ獅子也、其を横谷獅子と賞して、一流とせり、或ハ野馬等亦妙なり、其手際奇麗なる事、鮒子に至れまで、精到力(セイタウチカラ)あり、石そしは流のあたりに、紅紫のたうなるを塑(ゾム)がごとく、又事にしてすごき所あり、尤珍重とぐきものなり

直光　柳川氏　江戸神田住

利之衛と稱ず、直政弟子也、柳川風にして恰(アタカ)も直政をつきによく似て、たちに横谷風ゟかゝり、鏨(タガネ)の跡たちひなく、勢(イキホヒ)乃屑(イヤヂヨキ)を尚(タツト)び、其滿洒(レヤウシヤサツハリ)たる事、出茅(アサヂ)の上に、村雨(ムラサメ)のそゝぐがごとし

直政死後三左衛門と改め、後別家をとる

直克風　稲川氏　江戸神田永富町住

文四郎と稱ず、直政弟子能其工ゟ得たる横谷風にして、至て上手なり

直矩　小中村氏

金四郎と稱ず、直政弟子なり、江戸の住

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

直好　佐野氏　江戸　白銀町住
秋本侯の御抱
利八と稱す直矩の弟子なり。横谷風にしたく。
其品高く上手なり

直久　姓氏俗稱未詳。直政弟子なり。江戸の住

直春　柳川氏稱小平次
直幸の子。江府神田に住す

直利　森川氏稱久次郎　江戸神田濱松町住
彫物師なれども納子我蒔こと名人といふべし

直舊　尾崎氏稱要八　江戸新橋惣十郎町住
家風に似て。龍又ハ獅子を彫事。別して功者之

直孝　柳川直政弟子　江戸住

直隨　遠山氏　江戸浅草大音寺前住
傳藏と稱す矩隨弟子なり

直常　加藤氏　江戸神田三河町
市郎兵衛と稱す

直幸　柳川氏稱小平次　直政弟子　江戸人
此人柳川直政ト銘スルモノアリ

直次　清水氏稱甚古衛門　江戸住
直政弟子柳川小平次直春ノ実父也

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

直之　江戸住

直政　尾崎氏

初ハ嘉右衛門。後ニ孫左衛門と稱ず。江府數寄屋川岸南さや木町住。其彫奇麗にして。氣象はたれうしず。古にはちぢざる名人むかしに精

直次　京師住

直道為　宗田氏　大坂住

又兵衛と稱ず。後入道して道直と改む。その先京師の人。父を德直といふ。人物を彫る事上手なり。高彫肉合彫等。至て見事にして力あり。但賣物に出を仕入の物ハ。其作大におとれるも

直重為　宗田氏　大坂住　彫物師

直道子にして。父乃名越にとさぐる上手也

直峯　宗田氏　大坂住

治助と稱し。一山齋と號す。直道弟子也

弘良　桒村氏　加州金澤住　盛良弟程乗弟子上手

佐左衛門と稱じ。古工と號す。大聖持死驒守様より祿百石越ちさる。後浪人し入道して浄空と稱ず。

弘次　姓氏居住等未詳

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

序

序克　菊池氏

稲川直克弟子、江府下谷根岸ノ住、柳川流にて、高彫の上手、毛彫ハ一流にて、手際をのぞさよう、品乃高きまでよくそのひとる事、仰ぎよいへバ、智勇兼備といふんおなるん

序光　菊池氏　稱伊右衛門

序克弟子にして、江府神田に住せり、柳川流の毛彫に巧にして、甚うつくしくやさらかにきれいなる彫也、恨くハ、主勢頗るゆるめ事

序春　江戸神田住

長

長常　一宮氏

柏屋忠八と稱して、滅金師の弟子なり、初雪山と銘して、後越前大掾と受領ぜ下さる、一に舎章子とも號し、京都麩屋町二條下ル所に住せり、此人の彫工の妙なる、実に天然といふべし、其初筆、或ハ土筆、蝸牛、蛙等の生寫そのまゝのみて、人ぜして目ぜ驚こしめ、次第に彫琢に自由を得て、縦横くのまゝに、就或ハ獅子、又ハ人物など、時に臨ミ需に應じて彫出す事、奇々妙々當世乃神工といふべし、故に世乃賞

玩(ノワン)も亦大きくならず、いそぐ田毎(タゴト)の月乃ながめ
異(コト)なれど、姨(ヲバ)捨(ステ)しのこゝろきんりちかり出て、
ちよ(テギハ)後の自由に、趣(オモムキ)の忍(ヒン)なるさまで、忍(オソラ)くハ其
右(ミギ)にしるものあらぐらし候、豈(アニ)賞して、且珍(カツチン)とせ
ざらんや

長義　京師ノ人後住ス大坂ニ

長常の子にしてみ、よく其妙をうかがひしる上
手なり

長春　江戸住

乗意風に真鍮(シンチウ)の縁頭など多く見しきり

長重　象眼工

九郎右衛門と稱ず、加州金澤象眼工宗吉が末
流とぞ

長吉　象眼工

久次郎と稱ず、同ク加州宗吉が末流なり

長兵衛　姓氏未詳　江戸馬喰町四丁目

菊をしげめ彫(ボリ)にする事上手なる我りて、世
に長兵衛菊と稱美(ショウビ)を、其工(タクミ)今伝(ツタヘ)て三代し

長房　平田氏稱ニ市左衛門ト　阿州徳島紙屋町住
正親ノ子野村正次弟子

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

久

久則　遅塚氏稱ス文次ト　江戸小石川住
水戸大学頭様御家中なぐさみ彫と
其細工至て精く、兩面の色繪分の一流、甚だ細密なる様あざやかに仕立たり所、外に及ぶりのなし、近年贋物多く出来ども、凡工の決して似ぐさ所にあらず、其物ハ如なるものと

久薫　江府住

久清　加州金澤住　後藤七兵衛詮清子
上手なり、葡萄に蜂などの縁頭、殊に出来物と

久助　千代氏　作州津山住
鏨の痕奇麗によく調ひたる上手なり

政

政隨　濱野氏　江戸神田大工町住
太郎兵衛と稱し、乙柳軒又ハ驪風堂、或ハ閑徑又ハ味墨、穐蜂齊などの數號ありて、其銘する不一にあらず、或ハ防隨と銘せるもあり、奈良利壽弟子なり、其彫一流様なさねども、第一手ばよき様にのみて、氣象様あらはし、さつぱりとして勢あり、そも仰山にいへば、虎嘯バ風おこり、龍吟ぜれば、雲様起すのこちらにはこころよく爽然たらしむ

政光　金子氏　加州金澤在住　後京師ニ歸ル
前田近江守殿ヨリ貳拾人扶持下サル
吉之丞と稱して、九代目程乗下彫工の中にて、

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

格別の上手之但此金子氏其系未詳、其ゆへし
金子氏は其祖我吉之丞義治といひて、光乗弟子
なり、歴々乃庶流よりしなれども、彫工に名誉を
揚ゝる也、子孫今猶連綿たり、其五代目利奥
紀州様御細工人となれり　義治事、錯て名譜に脱せり、故に
ここに附記す、委くは後篇に出す

政守　細野氏　京小川二條上ル

宗左衛門と稱し、毛彫象眼といふものは創意
して一流をなし、高彫色絵等、各妙ならざる
事なく、誠に工中の英物なり、昔郭林宗が人
となりは評せしに、隠不違親貞不絶俗といへ

ばかごとく、何となく其品さらく、徳そなはれる所
あり、是錬磨を練たる上手乃至るべからん

政晴　麟風堂と号す、江戸の住

政恒　菊川氏

江戸に住す、其手際奇麗にして力あり、上手
とすべき彫琢なり

政重　姓氏未詳　江戸人

政長　同上

政應　同上

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

政春　國岡氏

國岡氏政春酒樂作と銘を。江戸の住

政德　正阿弥　埋忠氏

市郎兵衛と稱ず。京都西陣の住

政昌　正阿弥

播州赤穗の住

政平

勘七と稱ず。加州象眼工辻山城守末流

政信

勘七郎と稱ず。政平子なり

正

正長　西　奈良氏　利永弟子

清六と稱ず。江戸浅草御門内馬喰町四丁目に住ず。手段奇麗にして力あり。薄に蝸蝶。又ハ秋の野など。殊に志ほらしく上ふし。此人の彫琢ハ。疎密を兼て。よく繁疎しる上手なり

正程　橋部氏

後藤程乗弟子なり

正治　富士氏　江戸西久保永井町住

上手ナリ

正親　奈良氏　同　横山町三丁目住

正長子

清六と稱し。初ハ乗和といひて。乗意弟子分也

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻　139-209
ガラス使用

なり。正長没後二三年ハ正長とも銘を切。後又正親と銘を。乗意ハ其伯母聟なるゆへ。弟子分となるなるべし。其工ハ父に及ばるども。亦庸工にはらず

正敷　奈良氏正長弟子　江戸両國駒留橋住
號菊壽齋
善二と稱し。初江戸にて正次といひ。中頃正幸と名乗。後正敷と改。一に亀光とも銘を。老後大坂に来り住を。螭龍を那に始めて。一流ゆへ

正間　河原氏　江戸小傳馬町二丁目住
徳たまつと稱し。奈良正親弟子なり

正虎　西川氏
江戸赤坂畔鍬谷に住を鍔工の上手

正重　奈良氏　江戸八丁堀邊住
新太郎と稱ず。奈良正親弟子也

正次　野村氏　阿州侯御抱
江戸京橋に住を。野村忠吉弟子

正信　伊藤氏
俗稱鍔屋太助。京師新町松原下ル所に住を。鍔師なり

正恒　伊藤氏稱甚右衛門　江戸神田住
御鍔師　一流ノ元祖

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

細透鍔乃作に於ては獨歩れ名工といへし

正方　伊藤氏　江戸神田住

細透（ホソズカシ）ものを彫鍔工なり正恒の子

正佁

江戸に住す毛彫工なり

正尹

江戸に住す正尹（マサタヾ）と篆文（テンジ）にて銘す

正親

いまだ何許（イヅレイトコロ）れ人なるを知ずして奈良正親（マサチカ）とは別人之

正元　磯野氏　京御池柳馬場東へ入

俗稱升屋小左衛門

正伯　磯野氏

俗稱住所等同上（シ）ニ

正入　同上　京二條麩屋町西へ入

俗稱小左衛門後小兵衛と改

正博　同上

初ノ正勝（マサカツ）と銘す俗稱住所並同上

正克

其住所未詳其彫をいて推（オ）すれ京彫れ上るとゝ

ゆるなり上京の人なるべし

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

正國　肥前唐津住

鍔など細透(ホソズカシ)の上手なり

正則　平尾氏　備後福山住人

地がねにたくてつけたりとせし脇なり。江戸の町脇のんはなまて。地磨地石目等をこのむいまだ納子地のものは見えず

正種　津田氏　京都烏丸八幡町に住す

俗稱白銀屋彦兵衛とて。白銀師乃上手之。脇物師にはたらば。縁ひ。目貫。小柄。鍔などの恵(ナホ)しりのをもつ事功者(コウシヤ)也

正次　江戸芝新銭座に住

正國　姓氏未詳　江戸住

正侶　細透鍔工　姓氏未詳　備前岡山住

無垢(ムク)入し縁ひなどをして見事なり

正安　平田氏五代目ナリ　阿州徳島紙屋町住

與八郎と稱ず。象眼工なり

正壽　玉川氏　常州水戸鍛治町住

文平と稱ず。美壽(ヨシナガ)の子なり。後(ノチ)江戸浅艸に住す。父におとらざる上手にして。甚だ奇麗に

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻　139-209
ガラス使用

器用（キヨウ）なる作といふべし

正則　村上氏　江戸芝宇田川町ノ住

唯七と稱す。如竹弟にて。象眼高彫ともに上手なり。しかれども其位（クラヰ）ハ如弁に下（クダ）まり

正勝　姓氏未詳　下總國佐倉住

初ハ唐津中比小田原ニ住スト云云

正次　松村氏　江戸住

正道　姓氏居住等未詳但シ　阿州侯ノ御抱ニ

野村正道トテ。江戸住ノ人アリ　此ノ花押ヲ銘スルトハ。別人ナルモ知ルベカラズ。識者正シ玉ヘ

正親　平田氏稱ニ市左衛門ト　阿州徳島紙屋町住

津尋甫弟子　阿州御扶持人

信

信時　安堂氏

平七と稱ず。尾州名護屋（ナゴヤ）大津町ノ住人なり。赤銅地磨。高象眼むく入など。甚だ見事にして。結構（ケツコウ）なる事。蜀錦（シヨクキン）にまされり。人あらそひて是を我りとめ。たゞにまゐる人。門前に市（イチ）をなすがごとし。生得（シヤウトク）一癖（ヒトクセ）あるものにして。これ我いとひのがれて京師に遊び。終（ツヒ）に其名をかくせり。其作拙なまゝに出まで。價（アタヒ）必ず貴（タフト）し。最（モツト）もをしむべきハ此人也

信方　江戸住

奈良弥五八を学べり。其姓名稱等未詳

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

信益

主水司（モンドノツカサジユ）従六位下。主水令史（サクワン）原井氏など銘す。

其居住等未詳

信清　江戸住

信房　埋忠氏

清之丞と稱ず。加州金澤の住。桑村古工の弟子なり。手際奇麗にして古色（コシヨク）あり。上手とうべし

信重

奥州會陽（アヒヅ）住正阿弥藤原氏と銘す。俗稱未詳

大躰の作なり

信安　後藤氏

與左衛つと稱ず。大坂伏見掘（フシミボリ）貳丁目に住す

信經　姓氏未詳　奥州仙臺住

此人の作（サク）。別（ベツ）して細金（ホソガ子）無垢（ムク）入物上手なり

陳

陳孝　奈良氏　江戸小傳馬町貳丁目新道住

伊八と稱ず正長前彫（マヘボリ）の銘し

陳喜

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

英昌　大森氏　江戸浅草三軒町住ス
俗稱與市　直政弟子
一ニ幹支間ハ銘(メイ)あり。大森流の元祖上手なり

英秀　大森氏　住所同上ニ今浅草柳橋ニ住ス
英昌弟子ニシテ後子トナル
喜惣次と稱ず。其ハ大森(オホモリ)一流と稱するハ此人より
盛(サカン)なり。其彫琢岩(イハ)越ハ清んざく勢ありて。志かも甚
奇麗し。但ハ一ハ浪などの深彫ニ至て見事に。
又梨子地ハ深牡丹(フカボタン)ハ類ハ其似(マ子)ゑなしね。ほどのぬ
あり。宗珉の一輪(リン)牡丹を擬(ギ)して。創意(サウイ)せしまし
ものなり。武者物(コト)ハ妙之

英精　横谷氏　稱ス伊右衛門ト　江戸新橋守山町ノ住
後ニ改ム宗祐ト宗與ノ兄

至て上手なれども。其作其ハ不多(カラ)ハ知(ル)人稀(マレ)之

英精　二代目　現在　江戸京橋太田屋敷ニ住ス
初石川久蔵ト云寫物ノ上手(テキ)後邑珉ト號ス
上手なり。此人彫琢乃手利(テ)まして。達者なる
事おとぶものなし。たとへバ小刀(コヅカ)柄など越れ
むに。興(キヨウ)ハ学(ジヨウ)ざれバ。そまし鑒を尋(モテアソ)びて数柄(スヘイ)越
作る事。奇々妙々。旁(カタハラ)ハ人なきがごとし

英茂　英精ノ子　稱ス巳之助ト　初銘ス宣貞ト

英辰　大森英昌ノ弟子　江戸浅草住

英幸　江戸ニ住す

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

英知

英盈

英雲

右共に江戸に住せ

英[illegible]　川上氏　稱半十郎　阿州徳島紙屋町住

英直[illegible]　姓氏居住未詳

英次[illegible]　横谷氏　江戸人

古英精弟子にて、後養子となる

常

常珍[illegible]　古川氏　現在

元珍子にして、江府馬喰町三丁目に住せ、鑿はき奇麗にて上手なり、其工父にまさまり、鈒花匠なり、間々高彫のものも見及べり

常成　辻氏

孫助と稱し、樂水堂と號す、江州國友村の人、辻丹治従兄弟なり、臨川堂の風を擬して、くゝ賞せしに、早世せしまし、是に餘年を傳ぞ、臨川堂におとらざる名工と稱せられ

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209

ガラス使用

常和　奈良氏　江戸住

[illegible]と稱ず。弥五八弟子なり

常重　川村氏　江戸神田住

市右衛つと稱ず。初関口了嘉と銘す

常定

江府神田に住す菊池序克弟子なり

常克

江戸住俗稱姓氏未詳

常榮

同上

常隆

姓氏居住等未詳

常直

久兵衛と稱ず。長常の弟子なり。攝州高槻の産にて。後京師に住す

常道　姓氏未詳　京師人

常勸　篠崎氏　常州水戸白銀町住

勝國の子なり。庄三郎と云。後雪軒と號す

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

清次郎　後藤氏

其名未詳加州金澤乃住。後藤市左衛門子なり。
其作をもつて。奇麗にして力あり。上手といふべし

清左衛門　後藤氏

其又名(ナノリ)柴詳ならず。加州金澤に住して。久清(ヒサキヨ)が
弟と。細工ハ上手にして。珍重すべき所なり

清冷　後藤氏

七三郎と稱す。久清が子と。加州金澤袋町に住
す。是又上手にして當すべき彫工し

清定

其姓未詳(ナラ)。奥州仙臺魚屋町に住すと。其作甚
見事にして上手なり

清吉　島村氏　江戸神田橋本町住

直利(ナホトシ)弟子なり。鮪子鐵(マク)を上手

清安　伊藤氏　江戸住

墨繪(スミヱダチ)様の象眼など頗(スコブル)る奇(キ)(メヅラシ)し。但し如竹風し

清助

尾州名古屋長者町の住。姓名未詳(ナラ)

清乗　後藤氏

利兵衛と稱す。江戸浅草堀田原の住なり。江

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

戸にて廣東(カニトウ)鍔の作人

清吉　後藤氏

江府両國横綱に住す。後藤清乗の弟子。鉄に象眼を施(イル)事。列してぬく。まかなかなくしうつしものに上手なり

清久　松井氏

長州萩(ハギ)府に住。鍔工(ツバシ)なり

清七　姓氏未詳　鍔屋ト稱ス　大坂南糸屋町骨屋町ニ住

鍔工の上手なり

尹　尹泰

右ハ彫工の名にならず。江戸神田龍閑(リウカン)町に住す。伊藤三郎兵衛といふ小道具屋に物(モノ)好(ズキ)にて。矩随(ノリユキ)風(フウ)の彫工を見えらえて。これを製(セイ)せしめ銘(メイ)するなし。尹泰(タヾヤス)に字ハ。伊藤の旁(ツクリ)を割取(キリトリ)たるものとぞ

尹重正　姓氏未詳　江戸ノ住

孫　孫七　姓氏未詳　尾州名古屋住　清助弟子

孫四郎　姓氏未詳　備前岡山住　白銀師上手

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

有

有秀　姓氏未詳　長州萩住

有重　奈良氏　江戸住

尚

尚茂　岡本氏　京佛光寺通室町住

俗稱鉄屋源兵衛　世ニ鉄源　鉄屋傳兵衛弟子之。初名敏行（ハシメノナ トシユキ）といふ一ニ正樂の號（ガウ）を銘（メイ）せるあり。近代獨歩（トツポ）ともいふべき名工なり。第一鉄物（テツモノ）ハ治（コナ）す事。古来（コテイ）其右（ミギ）に出るものなし。もしより金銀赤銅四分一など。各鑿痕（オノヽ タガネツキ）奇麗なる事。其時（ハンジ）菴（アン）が發句（ホク）に出る日ハ我れにはらせて初ざくら。と

れ。すべきごとし風情（フゼイ）なり。惜哉（ヲシイカナ）安永九年。にそらに没（ボツ）せり。志かれども其名今に高（タカ）く。其作まさしく賞玩（シヤウクワン）せり

尚房　姓氏未詳　俗稱鉄屋文次郎　鉄傳弟子　京師

尚茂（ナホシゲ）養子となり。後（ノチ）鉄屋傳兵衛へ帰れ

尚道　姓氏未詳　稱庄助　鉄傳弟子　京師

尚方　同上　稱長兵衛　尚茂弟子　後為養子改源兵衛

尚友　同上　稱伊兵衛　尚茂弟子

尚房　姓氏居住等未詳　鉄屋文次郎ト同名別人ナリ

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209
ガラス使用

則

則虎　姓氏未詳　江戸ノ住

則久　同上ニ　同上

如竹風ハ象眼工なり

矩

矩隨　濱野氏　野ノ字墅ニ作レリ　俗稱忠五郎

江戸神田小柳町ノ住

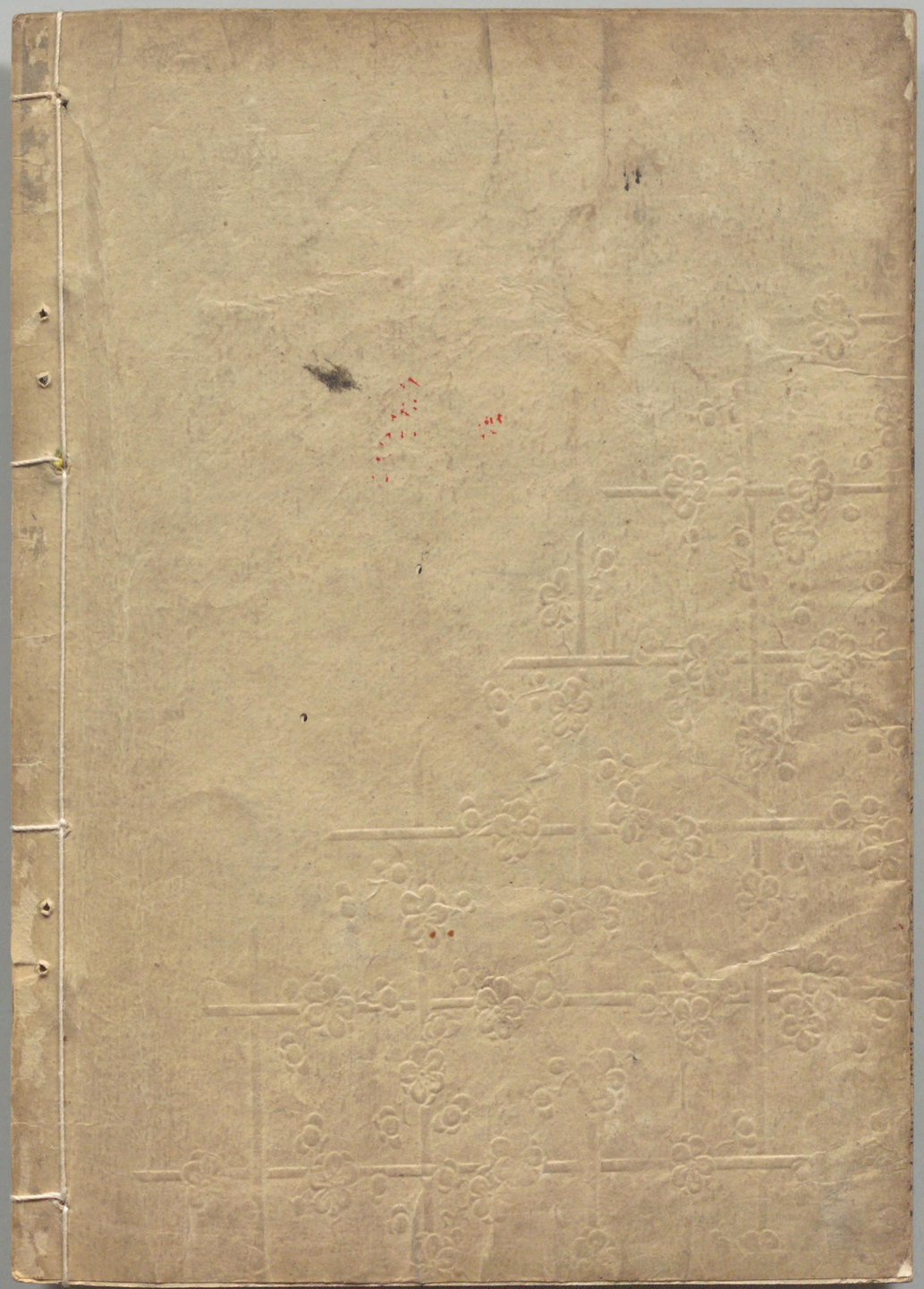
政隨（シヤウズヰ）ハ弟子なれども乘意風ハ肉合彫なり近年外まても此人乃作ハ擬（ギ）されども（ナゾラヘル）ゆ（ケツ）して及ぶべからず

矩最　中澤氏　矩隨弟子歟　江戸住

裝劍奇賞卷之三終

国立国会図書館　装剣奇賞 7巻 139-209

ガラス使用



国立国会図書館　　装剣奇賞 7巻　139-209

ガラス使用